

Support 21 

Vol.51 2013.7

Newsletter

49名の生活支援生が決定しました！

今年度の支援生は 12 カ国出身。経済的な困難を抱えるインドシナ難民・条約難民とその子弟に加えて、中国帰国者や日系定住者とその子弟などの就学を支援しています。

さまざまな出会いの中で 変わった自分

ファム・ニーブン

東京工業大学大学院修士課程技術経営専攻 2 年 (2009 ～ 2013 年度さぽうと 21 支援生)
マレーシア生まれ、日本育ち。ルーツはベトナム。



およそ 25 年前、南ベトナムからマレーシアへ家族が逃れ、僕が生まれました。1 歳 10 か月のときに来日しました。記憶は日本での記憶しかありません。品川の国際救援センターでお世話になり、ずっと東京で生活しています。ベトナムの人も全然いないところで育ち、名前はカタカナで、子どもの頃、自分が何者なのかよくわからずにいました。

「日本人のように生きたいのなら、周りの人よりも何倍も努力しなさい」といつも言っていた両親の教えがあって、部活も勉強もがむしゃらにやりました。しかし、大学受験には失敗してしまい、どん底を味わいました。家族に「もう我が家は解散だね。生きていくのをやめよう。お金もないし、一人じゃ勉強もできないでしょう」と言われてショックだったのを覚えています。食費などを削って、家族全員で協力して浪人生活 1 年を過ごしました。

大学 (東京理科大学工学部) では経営工学を学びました。理系の中でも一番幅広く学べると思い、選択しました。3 年生になる時、さぽうと 21 の坪井一郎・仁子学生支援プログラムに応募しました。当時は外国出身という自分のルーツにまだ向き合えておらず、

面接官の方には厳しいお言葉をいただきました。合格したものの、夏期研修会に参加するまで、正直、自分が外国出身者としてサポートを受けることを受け入れられず、他の支援生と一緒にされたくないなどと思っていました。とても傲慢な考えだったと思います。でも、研修会で出会ったみんなは生き生きとしていて、自分に自信をもち、主張がはっきりしていて、話してみたら面白い人ばかりで、イメージが全く変わりました。自分のルーツを認められたのは、さぽうと 21 で他の支援生に出会えたからだと思います。

さらに、自分の進路を決定する運命的な出会いもありました。研修会中に話しかけてくれた先輩が大学院で技術経営を専攻しており、コンサルタント会社への就職も決まっていた。コンサルタントの仕事にはもともと興味もあり、あこがれもありました。その先輩の誘いで聴講した大学院の授業がとても面白く、進学を決めました。技術経営は実践的かつ最先端の技術やビジネスについて学べ、自分の考えを自分の言葉で表現する能力を磨くことができるころだと思います。社会のことをもっと知りたいと思って、積極的に複数のインターンにも参加しました。大学院は課題が多く大変なこともたくさんありましたが、おかげさまで、コンサルタントとして働ける会社に内定を頂きました。

今後の目標は、信頼される人間になることです。自分の人生を振り返ると、出会いにとっても恵まれていたと思います。人生のいろいろな節目に、尊敬でき目標となるような人々に出会いました。これまで、外国出身であることで、周りにとっての当たり前が自分には当たり前ではなかったり、あきらめなければいけないことも何度かあったのですが、人との出会いを通して、人生の参考になる考え方を知ったり、努力することでできるようになったこともたくさんあります。これからは、信頼され、与えられる側から与える側になれるようがんばっていきたいです。

2013 年度支援生紹介

生活支援プログラム

高校生・専門学校生・大学生対象

支援生：39名

支給年額：5,600,000 円（予定）

坪井一郎・仁子学生支援プログラム （通称：坪井基金）

大学生（3年次以上）・大学院生対象

支援生：10名

支給年額：6,400,000 円（予定）

就学を支える「生活支援金」を月々支給する他、面談や合宿研修会などを通して、将来設計や生活状況に関する相談にも応じています。

また、坪井一郎・仁子学生支援プログラム（東洋熱工業株式会社 of 創業者と令夫人のご遺贈を元に設立）の支援生による年1回の研究報告会を行っております。

国 籍	人 数	学 校
ベトナム	21 名	高校 11名 専門 3名 大学 7名
中 国	5 名	高校 1名 専門 1名 大学 2名 院 1名
ミャンマー	3 名	高校 3名
ナイジェリア	2 名	高校 1名 大学 1名
ペルー	2 名	高校 1名 大学 1名
カンボジア	1 名	大学 1名
アルゼンチン	1 名	専門 1名
ブラジル	1 名	大学 1名
アメリカ（ベトナム出身）	1 名	高校 1名
その他 （日本に帰化 / 無国籍など）	12 名	高校 2名 専門 1名 大学 7名 院 2名

（順不同）

2013 年度坪井支援生

No	氏名	性別	国籍	在籍校・学年
1	リー ヴィサー	男	カンボジア	横浜市立大学 国際総合科学部 国際総合科学科（環境生命コース） 3年
2	武藤 真弘	男	日本（ベトナム）	慶応義塾大学 理工学部 管理工学科 3年
3	グエン ニャット アウ	男	ベトナム	立教大学 文学部 史学科 3年
4	鄂 海 友	男	中国	首都大学東京 都市教養学部 都市教養学科（教育学分野） 4年
5	ファム ティ ハ	女	ベトナム	横浜市立大学 国際総合科学部 国際総合科学科（国際文化創造コース） 4年
6	市島 ホセ	男	ペルー	横浜市立大学 国際総合科学部 国際総合科学科（環境生命コース） 4年
7	竹内 広恵	女	日本（中国）	大阪大学 法学部 国際公共政策学科 4年
8	于 冰	男	中国	東北大学大学院 工学研究科 電子工学専攻 博士課程前期 1年
9	ファム ニーブン	男	日本（ベトナム）	東京工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 技術経営専攻 修士課程 2年
10	西村 美慧	女	日本（中国）	名古屋工業大学大学院 工学研究科 創成シュミレーション工学専攻 博士前期課程 2年

（順不同）

募集と応募の時期について

募集要項：毎年10月～11月頃にホームページなどで公開いたします。

応募期限：生活支援プログラムは1月末頃、坪井基金は12月中旬です。
詳しくはいつでもお問い合わせください。

TEL: 03-5449-1331 <http://www.support21.or.jp>



わかる喜びを実感！ 知る楽しさを体感！ ～ミャンマー（ビルマ）を知るための勉強会 全4回～

さぽうと21の学習支援室で日本語や学校教科を学んでいる方の約9割は、ミャンマー出身です。国の事情も大きく変わりつつあり、今最も注目を集める国とも言えるミャンマー。その国をもっと知りたい、というボランティアの皆さんの声がきっかけとなって、5月から6月にかけて、学習支援室ボランティアを主な対象とする「ミャンマーを知るための勉強会」（全4回）が行われました。

テーマと講師

4月6日「アウンサンスーチーと近年の動き」 6月1日「民族」 6月15日「宗教」

田辺 寿夫先生（元 NHK 国際局チーフディレクター）

5月18日「支援現場から見たミャンマーの今、そしてこれから」

府川賢祐さん（JICA）、山本祐一郎さん（AAR Japan）

当会評議員でもある田辺先生が全4回中3回の講義をお引き受け下さり、参加者から「あふれ出る知識、言葉、熱い想い」と評されるお話で、毎回1時間半があっという間に過ぎてしまいました。

また、JICA 東南アジア・大洋州部東南アジア第四課長の府川さん、姉妹団体 AAR Japan（難民を助ける会）ミャンマー支援担当の山本さんにもお話を伺いました。支援活動における大きな流れと、現地の人々の顔の見える活動現場の動きを、あわせて感じ取ることができました。

毎回30名をこえる参加がみられました。「日々の活動の中で疑問に思っていた事が、お話をうかがって納得できた」「次は支援室で勉強している方々から直接お話をうかがってはどうか？」「やはり勉強会は学ぶ事が多い。学習支援についても、もっと勉強したい」など、知への欲求に限りはないようです。学習支援室で学ぶ熱心な受講者を支えているのは、まさにこうしたボランティアの皆さんの誠実な学びへの姿勢にあると実感した勉強会でもありました。



毎回大好評だった 田辺先生の講義



府川さんと山本さんをお迎えして

夏期研修会を開催いたします

期間：2013年8月17日（土）～8月19日（月） 2泊3日

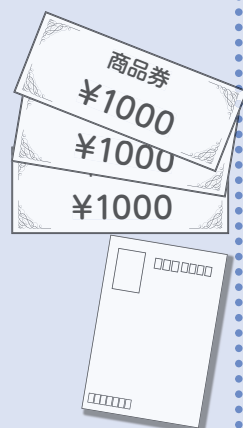
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

夏期研修会は、日本各地に住む12カ国出身の生活支援生が知り合い、ともに学ぶ場です。日本人ボランティアを含めて70名前後が参加し、さまざまなルーツの参加者同士が、自分たちの過去・現在・将来について語り合います。

商品券などご協力ください

- 商品券・図書カード類、未使用切手・葉書を募っております
学生用の文房具・書籍の購入や、参加者との通信費に充てさせていただきます
- 景品を募集しております
《例》社名入りTシャツ、販促品として制作されたもの

お問合せは事務局【TEL：03-5449-1331】まで。
研修会へのご参加もお待ちしております。



毎年、いろいろな出会いが生まれています

2012 (平成 24) 年度事業報告

I. 生計困窮者に対する生活援助事業

～難民及び、中国帰国者・日系定住者とその子弟等の自立支援～

就学支援

10 カ国出身の定住外国人学生の学びを支援しました。

生活支援プログラム

生活支援金支給者：高校・専門学校・大学生 合計 37 名
支給年額：5,099,490 円

坪井一郎・仁子 学生支援プログラム

生活支援金支給者：大学 3 年次～大学院生 11 名
支給年額：6,358,830 円

夏期研修会・活動報告会

東日本大震災から 2 年目の夏、支援生の多くが被災地訪問を希望していたこともあり、夏期研修会を宮城県で開催。その時のボランティア活動や被災者の方々との交流で学び、感じたことを、日本記者クラブにおける年末の報告会で、各支援生の研究や将来の計画に結びつけて発表しました。【日本郵便年賀寄附金配分事業】

2012 年度は、都内の専門学校（約 500 校）を対象に、定住外国人の入学要件や学費減免措置に関するアンケートを実施しました。83 校の回答をもとに、今後支援生への進学・就職ガイダンスや資格取得支援などを行ってまいります。

学習支援室

毎週土曜日の教室運営の他、文化庁から委託された人材養成研修、初級者向け日本語教室の開催と教材作成や、東京都共同募金会の配分金によるパソコン授業に取り組みました。

日本語やパソコンの指導、学校教科の補習など

開催日：毎週土曜日 10:00～18:00

参加者：毎回受講者・ボランティア講師合わせて約 90～100 名
(登録受講者約 100 名、登録講師約 90 名)

大正大学の実習生（春学期 4 名 / 秋学期 4 名）も積極的に活動してくれました。

委託事業、助成金事業

文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

「外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業」決算額：1,554,960 円

赤い羽根共同募金会全都 A 配分

「パソコン利用による学習支援室新事業」配分額：1,190,000 円

受講者・ボランティア講師向け行事

- 川柳教室 学習支援室ボランティア講師 岡野ようこ氏
- ミニ落語会 柳亭芝楽師匠
- インターネットセキュリティ・ワークショップ
IBM 社会貢献プログラム、コミュニティグランツ企画
- 秋の日帰りバスツアー ひたち海浜公園・大洗海岸
- 勉強会
「外国ルーツの子どもたちのココロって？」大正大学 鶴川晃氏
- 震災に関する講演会
南三陸在住・フィリピン出身 佐々木アメリカ氏
- 学習発表会
- ボランティア講師新年顔合わせ会
- 品川区防災フェアへの参加（希望者） 他



秋晴れの中、海浜公園を散策

2012年11月3日



はしご乗り実演を見学

2013年3月9日

東日本大震災関連支援事業

本年度も多くの企業・団体にお力添えを賜り、ニーズに沿った支援に努めた結果、厚生労働大臣より感謝状を授与されました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

AAR Japan (認定 NPO 法人難民を助ける会) との協力による主な支援活動

● コンテナハウス3棟の寄贈

- ①岩手県大槌町(地域産品の販売所として)
- ②宮城県気仙沼市(漁師の作業所/仮設商店街の子どもの図書室・遊び場 各1棟)

● 古今亭駿菊師匠・三遊亭金八師匠による巡演落語会

宮城県岩沼市・亘理町・丸森町・山元町の仮設住宅など合計6回

● 全国から集まった蔵書約 3,000 冊の寄贈

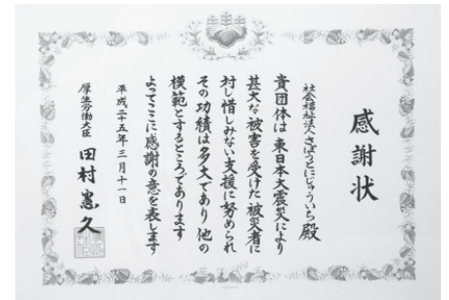
宮城県内の仮設住宅の集会所や福祉施設など7カ所に趣味の本や小説等を寄贈

● 被災者との交流(鳴子温泉)

罹災後離ればなれになられた宮城県石巻市北上町吉浜地区の出身者約 20 名をご招待し、当会支援生との交流会を開催

● チャリティコンサート

- ①女性重唱グループアンサンブル MOMO による被災地訪問コンサート
岩手県・宮城県の高齢者施設など6カ所
- ②ピアノ発表会とトランペット・コンサート
岩手県陸前高田市で全壊したピアノ教室の再開と発表会開催を支援(協力:トランペット奏者小林好夫氏)
- ③被災地おかあさんコーラス活動支援コンサートの運営支援[すみだトリフォニーホール]



緊急経済支援

緊急就学支援: 1 件(男性、日本国籍取得) 支給額: 40,000 円

出生が届けられていなかったため、公的な教育を受ける機会がなかった未成年者のフリースクール通学費用を支援しました。

Ⅱ. 生計困窮者に対する相談事業

相談件数: 72 件

教育、在留制度、医療などに関する相談を電話、面談、Eメールで随時受け付け、行政や他団体、専門家と協力して対応しました。

Ⅲ. その他

広報活動

①ニュースレターの発行

広報誌『Support21 Newsletter』を年3回(毎回約 1,100 部)発行

②日本の国際化社会を考えるシンポジウム[宮城県青年会館]

東北大学大学院、宮城県国際化協会からパネリストを招いて開催

③ AAR との共催コンサート(被災地支援の一環として)

『鼓童と和太鼓の仲間たち』[2012年6月 サントリーホール]

『忘れないで3.11』[2012年9月 サントリーホール]

天満敦子ヴァイオリン・リサイタル『明日に繋ぐ祈り』

[2013年3月 東北公演(3県6会場)・東京公演(浜離宮朝日ホール)]

④支援生報告会・パネルディスカッション[日本記者クラブ]

定住外国人の声を発信する機会として、支援生による被災地訪問活動報告と、社会人として活躍する支援生 OB・OG を招いたパネルディスカッションを主催



皇后陛下にご来臨を賜った天満さん東京公演
©遠藤宏

2013年3月29日

サンキョー株式会社 20 店舗に募金箱を設置していただいております

東日本大震災発生後の 2011 年 10 月より、本社をはじめ 20 店舗に被災地支援の特製募金箱を設置なさり、集まった募金を毎月当会にご寄付頂いております。

おかげさまで、これまでに被災した学校への教材・備品寄贈、仮設住宅での落語会や福祉施設でのコンサート、仮設商店街へのコンテナハウス設置など、姉妹団体 AAR Japan とともに、岩手・宮城・福島の各県において多岐に渡る支援活動を継続しております。

日本アイ・ビー・エム株式会社 コミュニティ・グランツ・プログラム

学習支援室のボランティア講師をして下さっている社員の方が推薦人となり、オリジナル教材の作成や当会の広報・記録写真の撮影用に、デジタル一眼レフカメラ購入費用を援助して頂きました。

2012年度は、都内企業（約750社）のCSR部門に対し、法人会員（年会費50,000円）、外国出身学生の職場見学、当会が行う催しの会場提供やボランティア派遣といったご協力方法についてアンケートを実施いたしました。CSR活動に関するご相談やご質問をお持ちの企業の方がいらっしゃいましたら、事務局までお問い合わせください。

[TEL: 03-5449-1331/ Email: info@support21.or.jp]



被災地支援のために設置して頂いている募金箱



教材や活動記録の作成に大活躍の一眼レフ

2012 (平成 24) 年度会計報告

貸借対照表

平成 25 年 3 月 31 日現在 (単位: 円)

	科 目	金 額	
【資産の部】	流動資産		
	現金預金	44,634,383	
	前払金	0	
	立替金	0	
	流動資産合計		44,634,383
	固定資産		
	基本財産		
	その他基本財産	100,000,000	
	基本財産合計	100,000,000	
	その他の固定資産		
	什器備品	118,125	
	土地	17,600	
	長期保有目的有価証券	100,000,000	
	その他の固定資産合計	100,135,725	
	固定資産合計		200,135,725
	資産合計		244,770,108
【負債の部】	未払金	1,032,961	
	預り金	136,492	
	流動負債合計		1,169,453
	負債合計		1,169,453
【正味財産の部】	正味財産		243,600,655
	(うち基本金)		(100,000,000)
	(うち当期正味財産増加額)		4,146,962
	負債及び正味財産合計		244,770,108

資金収支計算書

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日 (単位: 円)

科 目		24 年度予算額	24 年度決算額
1. 事業活動収入	会費収入	1,500,000	1,480,000
	正会員会費収入	1,500,000	1,480,000
	補助金等収入	5,407,000	5,407,330
	民間助成金収入	1,290,000	1,290,000
	公的助成金収入	4,117,000	4,117,330
	寄附金収入	25,000,000	24,685,931
	寄附金収入	25,000,000	24,685,931
	受取配当金	15,000,000	15,000,000
	受取配当金	15,000,000	15,000,000
	雑収入	1,200,000	1,374,165
	受取利息	1,200,000	1,206,328
	雑収入		167,837
	事業活動収入合計 (A)	48,107,000	47,947,426
	前期繰越収支差額	39,190,393	39,190,393
	収入合計 (B)	87,297,393	87,137,819
2. 事業活動支出	事業費	49,027,000	38,724,935
	生活支援金	12,400,000	11,458,320
	生活相談費	3,820,000	3,415,042
	生活援助事業費	2,900,000	3,467,238
	助成金事業費	5,600,000	4,428,459
	震災事業費	19,180,000	10,637,638
	夏期研修会・発表会	3,500,000	3,914,531
	福利厚生費	10,000	
	旅費交通費	330,000	405,750
	通信運搬費	550,000	380,930
	会議費	10,000	10,960
	消耗品費	10,000	6,154
	印刷製本費	500,000	452,283
	ソフトウェア購入費	50,000	0
	書籍費		57,502
	諸謝金		
	保険料	7,000	0
	会費	30,000	20,000
	支払手数料	100,000	53,195
	雑費	30,000	16,933
	管理費	4,989,111	4,947,954
	給料手当	2,190,000	1,984,238
	法定福利費	850,000	894,836
	通信運搬費	300,000	451,200
	旅費交通費	3,000	1,590
	消耗品費	300,000	231,040
	事務所賃借料	600,000	600,000
	外部監査費	105,000	100,000
	諸謝金	111,111	111,111
	福利厚生費	30,000	52,791
	会議費	10,000	18,762
	印刷機費	400,000	427,979
	租税公課		0
	支払手数料	80,000	73,095
	雑費	10,000	1,312
	予備費	3,000,000	0
	事業活動支出合計 (C)	57,016,111	43,672,889
	固定資産取得支出	0	
	什器備品購入		
	当期支出合計 (D)	57,016,111	43,672,889
	当期収支差額 (A－D)	-8,909,111	4,274,537
	次期繰越収支差額 (B－C)	30,281,282	43,464,930

第7回 加藤タキ

チャリティ・サロンコンサート

2013年10月8日(火) 19:00 開演 紀尾井ホール
S席 4,000円 / A席 3,000円 (全席指定・税込)

お問合せ・お申込みはさぼうと21まで (TEL 03-5449-1331)

出演 碓井 俊樹(ピアノ)、上野 由恵(フルート)、
北川 森央(フルート)

演奏曲目 ベートーベン『ピアノソナタ第14番 月光』、細川俊夫『線I』、
J.S. バッハ『パルティータ BWV997』、ドップラー『アングン
テとロンド』他

主催 AAR Japan (認定NPO法人難民を
助ける会)

共催 社会福祉法人さぼうと21

特別協賛 日本ロレックス株式会社

日本を代表する若手演奏家3人が奏でるフルート
とピアノの響きをお楽しみください。
コンサートの純益は、2011年から続くシリアの
内戦により困難な避難生活を強いられている難
民の支援活動に充てられます。



被災地支援活動報告 ～現地協力者からのメッセージ～

千葉 政徳

稲井オヤジの会代表

全国を結ぶお父さんたちのネットワークの一員と
して、地元・石巻の再生のために日々奮闘中

東日本大震災により大きな被害を受けた石
巻市立稲井幼稚園では、昨年(2012年)の
予算が大幅に削減され、灯油の購入さえ窮す
状態になってしまいました。備品購入を極
力控えながら、子供達の暖をとることを優先
している、との相談がありましたが、支援方
法が見つからない中、社会福祉法人さぼうと
21の吹浦忠正理事長から「タディの世界国
旗キャンディー」を無償提供して頂きました。
メンバーと相談の末、チャリティー販売をし
て幼稚園の備品購入に充てようと決め、市内
のさくらまつりなどを通じ、約3ヶ月で200
箱を完売。稲井幼稚園の他、備品が不足して
いた市内の住吉幼稚園(全壊した湊幼稚園が
間借り中)や稲井小学校も支援することがで
きて、大変嬉しく思います。

さらに今年6月には、住吉幼稚園にさぼうと21からリヤカー2台が贈
られました。毎月の避難訓練時、園児を連れて遠くの避難所まで歩いて
行かなくてはなりませんでした。リヤカーのおかげで、今後は子供達を
素早く避難させることができます。先生方もとても喜んでおられます。



チャリティーの純益をもとに、備品を
お届けしました



リヤカーが届いたよ！

ホームページが新しくなりました！

<http://www.support21.or.jp>

難民等の定住外国人によりよい情報提供を行うこと、外国出身者に対する
社会的理解を深め、支援者の拡充を図ることを目的に一新いたしました。

このホームページは「FITチャリティラン2011」によるご寄付でリニューアル
しました。同事業は金融業界の有志により運営され、社会的意義が高いものの認知度
などの問題で活動資金の確保が難しい非営利団体の支援を目的としています。



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.51 2013.7

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は...

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民や
その家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗
り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。
認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、
その国内事業を受け継ぎ、厚生省(当時)認可の社会福祉
法人として1992年に設立されました。

「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治
宗教に中立な立場で活動しています。
学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対す
る幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援してくださる方を 求めています！

■会 員：法人会費 50,000円
：個人会費 5,000円

■ご寄付：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普) 851872 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普) 1180279 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

住所：	〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル3階
TEL：	03-5449-1331
FAX：	03-5449-1332
E-mail：	info@support21.or.jp
URL：	http://www.support21.or.jp
印刷会社：	秋田協同印刷株式会社
編集・発行：	社会福祉法人 さぼうと21

